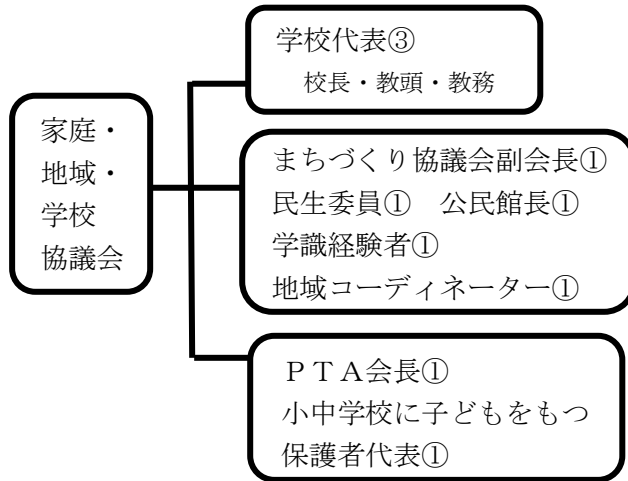


# 令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

小浜市立西津小学校

## 1 「家庭・地域・学校協議会の運営について」

### (1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



### (2) 協議会の内容

開催回数 2回

▶令和元年7月9日(火)

・学校経営方針・スクールプランとその進捗状況・年間行事の説明・教育活動の様子等進捗状況・年間行事の説明・教育活動の様子

▶令和2年3月3日(火)

・学校評価(成果と課題)・教育活動の様子

地域コーディネーター

・学校ボランティア②・地域の有識者①

・子どもを交通事故から守る会①

### (3) 協議会における成果と課題

【成果】年間10回の学校開放日(授業参観・体育的行事・学年学習発表会)に「家庭・地域・学校協議会」の方々をお招きし、学校の生の様子を観ていただいたり、感じていただいたりすることで、学校をより身近な存在としてとらえていただくことができた。

【課題】学校評価で明らかになった次年度の課題について、年度当初の協議会の中でその課題への対策についてもう少し具体的に示すことで、協議会の方々に視点をもって参観等をしていただくことが重要と考える。

## 2 地域と進める体験活動

### (1) 活動のねらい

- 児童自らがふるさとの自然や文化・歴史や産業等について調べ、活性化を図る取組を考える中で、ふるさとの魅力を再認識するとともに、ふるさとへの愛着心を育む。
- ふるさと(小浜・西津)の課題を知り、児童自らが課題解決に向けて主体的に考え、行動することで、次の時代を担う地域の一員としての自覚を高め、将来、「ふるさとのために働こう。」という気持ちをもたせる。

### (2) 活動の実際

#### ① 『働くことについて考えよう』～地域の産業について知り隊～(6年生)

自分の将来を考えたとき、地域の伝統産業である「若狭塗り箸」や小浜の観光産業に目を向ける児童が数多くいた。そこで、地域の箸工場の見学やホテルでの職場体験を計画した。箸工場の見学では、伝統的な若狭塗り箸の手作業の様子を見学させていただいたり、実際に箸研ぎ体験をさせていただいたりした。



別の日には、若狭塗り箸に魅せられて職人に弟子入りして、若狭塗り箸を作るまでに至った方に学校で「若狭塗り箸」の魅力について熱く語っていただいた。児童たちは、修学旅行で箸のPRをしたいと考えていたが、若狭塗り箸の魅力について、職人の方から直接お話を聞かせていただく中で、「箸のPRをしたい。」という思いをより強くしている様子を感じ取ることができた。

#### ② 「プロジェクトX ～西津を箸で元気にしよう編～」(6年生)



児童たちは、地元西津の伝統産業である若狭塗り箸に興味をもっており、インターネットや既存のパンフレット等で知識を得ていた。昨年度に引き続き、県外の人たちにPRすることを考え、立命館大学食マネジメント学部の学生にPRすることとなり、児童主体で準備を進めていった。

大学生へのPR活動では、自分たちで調べた内容を、クイズやゲーム形式を通して紹介することを企画した。「箸研ぎ体験」を大学生に体験してもらう計画を立て、箸組合から箸研ぎセットをお借りした。立命館大学びわこ・くさつキャンパスでのPR活動では、箸研ぎ体験やクイズ、ゲームに喜んで参加してくれる大学生を前に、地域の伝統産業の魅力を改めて感じている様子であった。

### ③「西津の美しい海・浜を守り隊」(5年生)

西津には、近くに海が広がっているものの、その美しい海や浜辺をきれいにしよう、守ろうという意識が薄いように思えた。そこで、遠泳大会前の浜そうじや遠泳練習・大会をきっかけとして、「西津の海」に児童の目を向けさせ、そこから感じとったものから、児童自らが課題意識をもって取り組んでいった。

まずは、お年寄りから昔の西津の海についての思い出を語ってもらった。そのことで、海に対する思いを膨らませることができた。その後は、海の風景写真を撮る活動を通して、全校に西津の海の魅力を伝える活動を行った。また、浜に手作りの「美しい海を守ろう」という旨の手作り看板を設置する活動を通して、児童自らが、海をきれいにする活動に携わった。

### (3) 地域コーディネーターの活動概要

▶年2回「ふるさと委員会」を開催し、本校の「ふるさと学習」を進める際の効果的な情報提供をしていただいたり、活動について多くの示唆を得たりした。

▶シルバーカフェでは、児童が地域の方々とスムーズに交流学習(学習発表や地域の方から学ぶ活動、ともに料理づくりをする活動)ができるように、調整や支援をしていただいた。

▶総合的な学習の時間に、伝統産業や伝統食、西津の海を学ぶ学習において、児童のインタビューに応じていただいたり、アドバイスをいただいたりすることで、学びを深めることができた。

### (4) 特に工夫した事項

▶活動がその場限りの経験や学びにならないよう、疑問や課題を大切にしながら、活動と活動につながりをもたせることを心がけたり、表現力を育成するため、他者に発表したり質問したりする場を、学習の中で何度も設定した。【6年生】

▶机上の学びにとどまるのではなく、海に足を運び、本物を見る学習を心がけた。見学前には、基礎知識を学習したうえで、疑問や質問を準備し、児童が自ら調べたいという意欲をもたせた。「鯖のへしこ」作り体験では、児童の保護者も交えて参加し、幅広く小浜(西津)の食文化に接することができるようにした。【5年生】

### (5) 成果と課題

【成果】地域の高齢者の方々や産業を支える職種に携わる方々の「郷土を大切に思う気持ち」に直接ふれることができ、ふるさと西津への愛着心が高まった。

【成果】地域の伝統産業である「若狭塗り箸」をPRする学習活動を通して、課題解決に主体的に取り組むことができた。大学生や高齢者、働く人々など普段はあまりかかわることのない人とのつながりをもつことで、座学では得られないコミュニケーション経験や社会性を磨く経験ができた。

【課題】ほかの伝統料理に関して、興味関心度が薄いため、ゲストティーチャーをお招きするなどの工夫を施し直接学べる機会を多く設けることが必要である。